

様々なニーズに対応する有効成分の提案に注力 様々な方法で温暖化ガス排出ネットゼロを目指す

BASF ジャパンは化粧品分野において、紫外線吸収剤を中心にサステナブルで高品質な製品の生産・開発を行っており、業界最大級の豊富なポートフォリオを取り揃えている。

同社の主力である紫外線吸収剤、油脂に関しては順調に推移しており顧客も増産に動いている。供給としては生産が追いつかない原料もあり良い流れではあるが、市場の購買欲は依然として増えておらず、中国の景気の減速による影響は大きい。

5月に上市した新商品「Tinomax CC」は、環境に配慮した100%天然由来の機能性パウダーで、炭酸カルシウムにヒドロキシアパタイトを表面処理したもので、光を散乱する。これ自体は紫外線を吸収しないが、サンスクリーン処方用最適で、紫外線吸収剤と一緒に処方することによって、紫外線防御剤の効果を向上させる。塗布時の白浮きや製剤の外観への影響が少なく、紫外線防御剤高配合によるべたつきやてかりの抑制にも貢献する。

6月に発表したばかりの「Arlypon CA」は、天然由来のステアラミドプロピルジメチルアミンとココイルグリシンの二つの天然原料をペアにしてひも状のミセルを形成し、透明なシャンプーを白濁させず透明性を保ったまま増粘し、コンディショニング効果にも期待ができる。

既存製品において昨年からは展開している「Cetiol SoftFeel」は人気の素材で、100%再生可能、植物由来のワセリン代替ソフトワックス。ワセリンに類似した閉塞性を持ち保湿性を高める。塗布前はワセリンより硬めのソフトワックス状でありながら、肌に塗布すると体温でより液状に近い性状になり、ワセリンよりなめらかな感触で肌に優しく、温水で簡単に洗い流せるのも特長。クリーム、バーム、スティックなど多様な剤型に応用が可能だ。

「Hydrasensyl Glucan Green」は、製材になめらかで心地よい感触を付与するのにも適した発酵由来のβ-グルカン。ヒアルロン酸の約16倍の保

湿力があり、シャンプーにもコンディショナーにも使え、洗い流した後も髪の毛をコーティングする。肌にも髪にも使用可能で、日焼けによる紅斑を軽減する効果も確認されている。

同社では有効成分に注力しており、例を挙げると「Hydrasensyl Glucan Green」は、増粘だけでなく保湿にも有効で、日焼けを抑えるだけでなく肌の赤みを抑える効果もある。人気の原料「Laricyl (ラリシル)」は毛穴を目立たなくする、小さくする効果が期待できる原料で、アプリケーションとしてはスキンケア用にも保湿製品向けにもなっている。サステナブルな原料ソーシングと防腐剤を天然由来のものにかえてリニューアルし、日本での発表に向けて準備を進めている。その他、美白、抗シワ、ブライトニング、アンチエイジング等、あらゆる有効成分を揃え、様々なニーズに対応する。

企業目的(パーパス)に「We create chemistry for a sustainable future」を掲げており、早い段階からサステナビリティにおける取り組みを実行している。具体的な最近の取り組みの事例として、2つ挙げたい。一つは廃タイヤや廃プラなどを熱分解して、バリューチェーンの初期段階(例: スチームクラッカー)に投入し、化学品生産時に使用する化石資源を、プラスチック廃棄物由来の熱分解油の一部に置き換えるケミカルリサイクルである。廃タイヤや廃プラを熱分解する工程は外部企業と連携し、熱分解油を連携先から購入する。もう一つは、有機廃棄物や植物油由来のバイオナフサやバイオガスなどのバイオマス由来原料を化石資源とともに投入し、製品にバイオマス由来特性を認証スキームのもとで割り当てるバイオマスバランス。これらの手法では、化石資源由来と同様の品質と物性を担保することが可能で、複数の産業分野で認証済製品の展開が日本国内でも進んでいる。廃棄物を洗浄後、再成型・製品化するマテリアルリサイクルも化石資源削減に対して有効でありながら、ケミカルリサイクルはマテリ

アルリサイクルではカバーしきれない混合廃棄物や汚れが付着している廃棄物も対象にでき、化石資源削減効果がさらに増える。ケミカルリサイクルおよびバイオマスバランス双方とも化石資源削減と同時に循環型経済の実現により、温室効果ガスの原因である二酸化炭素の排出量削減にもつな

がる。化粧品原料分野においては、UV 吸収剤などへの応用をめざしている。

企業の責任として完全なサステナブル素材で化粧品が作れることを可能にすることを目指している。